



第1回：イントロダクション

【補足1】文学史の出題歴

☆センター試験…01・02・08年度

☆二次試験…特に私大が知識問題として出題してきます。

多いのは明治・早稲田・立命館・成蹊・甲南女子・南山 etc.

国公立でもたまに出してきます。自分の志望校で出題されるかどうかは、各自で調べてみてください(^^;)

【補足2】いつ学ぶべき？

ぶっちゃけた話、高3の冬の受験生が「いまから文学史やった方がいいですか？」なんて聞いてきたら、わたしは迷わず「捨てる」と言います。膨大な歴史の中で、どの部分が出るかを特定できるはずがなく、当たる確率が低いからです。入試直前期にはもっと他にやることがあります。しかし、夏休みや1,2年生となると話は別。ぜひ勉強することをおすすめします。文学史は、一度通してきちんと勉強しておけば、たいていの知識は頭に入ります。試験に出るキーワードの暗記と、文学の流れの理解は、(残された時間がまだあるひとならば) やっておくべきことです。

結論。理想的なのは、夏に一度勉強して(あるいは1,2年できちんと学習して)冬にかかる一く復習程度に見直すこと！

【補足3】参考資料・教材

この講義を作るうえでわたしが主に使っている本を載せておきます。(参考書は编者省略)

・受験生にオススメ (参考書)

『改訂新版 新編日本文学史』第一学習社、2010年

『原色シグマ新日本文学史』文英堂、2012年

『日本古典読本』筑摩書房、2011年

『SPEED 攻略 10日間 国語 文学史』Z会、2012年

『データ徹底分析 頻出 日本文学史』河合出版、2003年

・受験生にオススメ (読み物)

『日本語の古典』山口仲美、岩波新書、2011年

『東京大学で世界文学を学ぶ』辻原登、集英社文庫、2013年



・参考にさせていただきました

『国文学史 すいすい暗記』受験研究社、1999年

『歌でおぼえる古典文法・文学史』河合出版、2008年

『日本文学史』小西甚一、講談社学術文庫、2012年

『日本古代文学史』西郷信綱、岩波現代文庫、2005年

『平安朝文学』西下経一、塙書房、1964年

『新訂 最新国語便覧』浜島書店、2010年

『近世文学の展開』森田雅也 編、関西学院大学出版会、2004年

『近代文学入門』平井謙・田井英輝 編、双文社出版、2000年

『現代日本文学史』大久保典夫ほか編、笠間書院、1989年

『近代日本人の発想の諸形式』伊藤整、岩波文庫、1994年